

忘れかけていた小さなワクワクを詰め込んだ、28 m²の宝箱。



東京都立大学大学院 くにもとはるき・こやまさきこ さく

水たまりを見つけイタズラしなくなったのはいつからだろう。
物分かりが良くなり、いつしか遊び心を忘れてしまった大人が、
日常に見つける無邪気でワクワクした気持ち、
『おとなごころ』で日常がほんのり彩られていく。
一見、無駄に見えるその形が住み手のおとなごころを引き出し、
自分だけの宝箱を作り上げていく。



従来の間取りや住器における機能・形態へ遊びの要素を付加させることで、
住み手ごとの解釈に委ねられた暮らしの楽しみ方が広がりうる。

おえかき



リビングの一部の床や壁は、ふとした時にひらめいたことを描きつける自由な空間に。



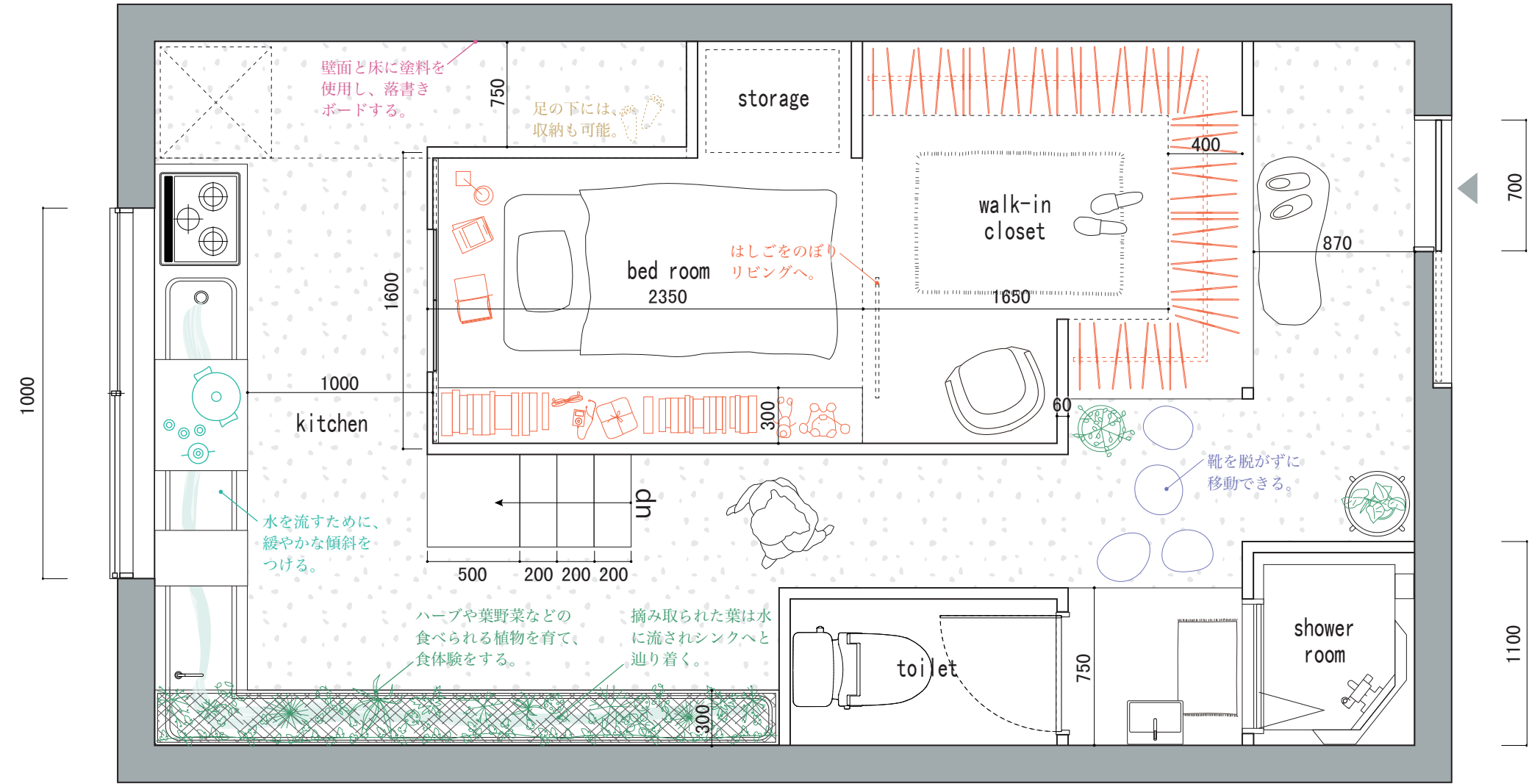
あしぶら

床から解放された足は自由になり、座りながらぶらぶらさせる。



ひみつきち

クローゼットは服をかき分け入っていくと、秘密基地、寝室、ダイニングが広がる。



平面図 scale:1/30 (A3)

みずあそび

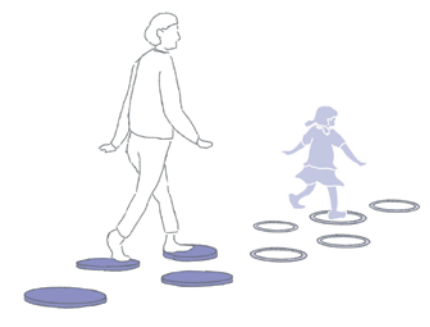


延びたシンクは水が流れ、草が流れ、生活が映る。上に板を乗せれば調理スペースに。

みちくさ

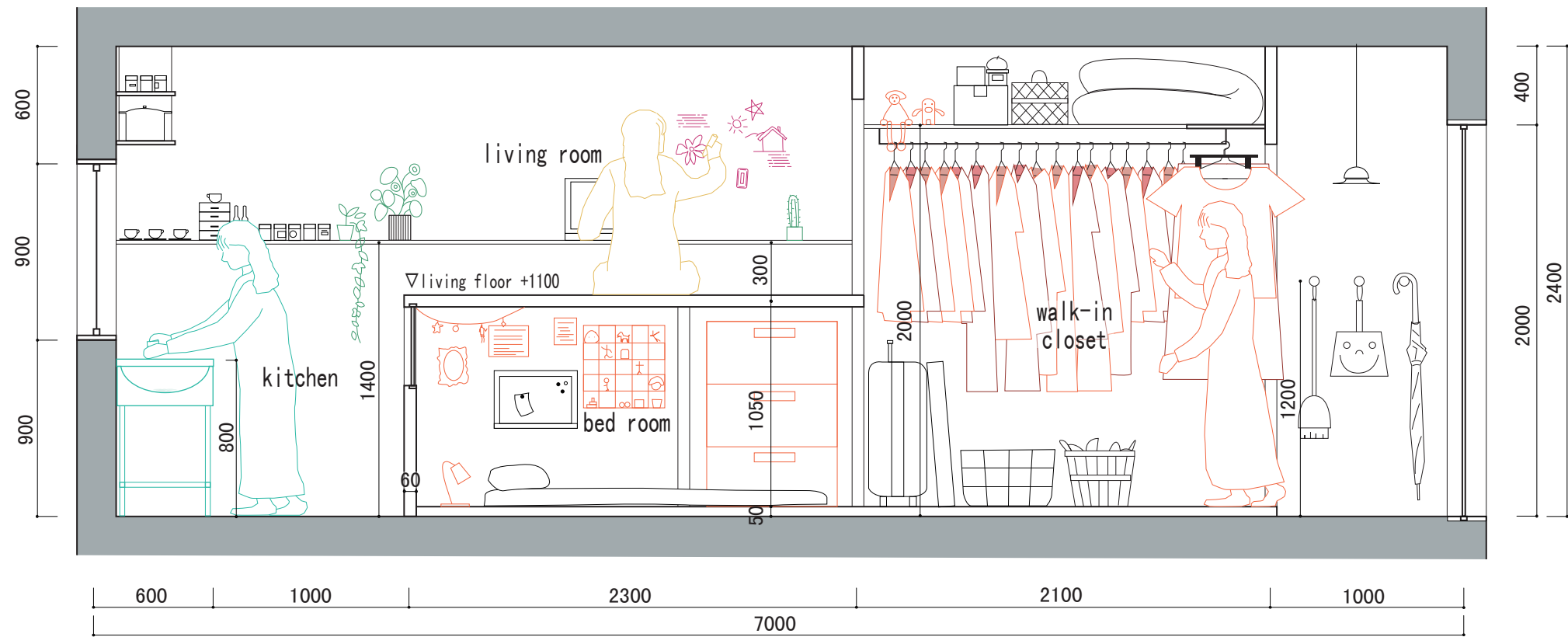


植物をよく見て、ちぎって、食べてみる。水をあげれば、滴り、シンクへと流れ着く。



けんけんぱ

秘密基地から、お風呂やトイレをつなぐ飛び石をけんけんぱで移動する。



断面図 scale:1/30 (A3)



玄関から、クローゼットやクランクした廊下を見渡す。



クランクの先に、キッチンやリビングが広がる。

28 m²にはまだ見ぬワクワクが無限大。